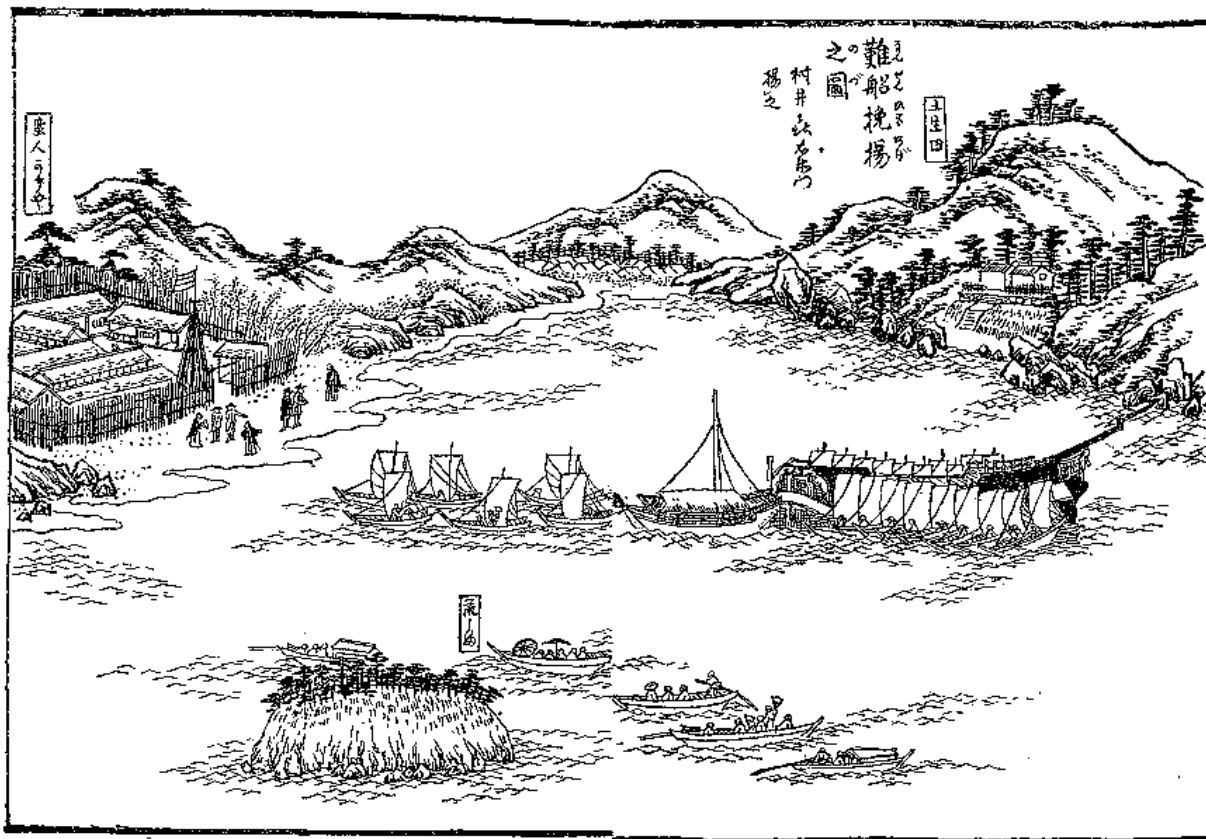


文化財めぐり

香焼地区の文化財

発行日 平成19年1月28日
発行所 長崎市魚の町5-1
長崎市教育委員会
生涯学習部文化財課
TEL 829-1193



難船挽揚之図

「長崎名勝図絵」より

日時 平成19年1月28日(日) 10:00~12:00

コース 「香焼行政センター」→「岩立神社のエノキ」→「堀池神社の鳥居」
→「豊前坊社のエノキ」→「遠見番所跡入口」→「圓福寺」

主催 長崎市教育委員会

講師 宮副淳子(長崎市教育委員会文化財課)

井立 尚()

香焼町の歴史

香焼町は、長崎港の入口に位置し、総面積は4.47km²で、豊かな自然に囲まれた造船の町です。明治22年(1889)に、町村制の施行に伴い深堀村大字香焼となり、明治31年(1898)深堀村から分離して香焼村となりました。昭和36年(1961)には町制が施行され香焼町となり、その後、平成17年(2005)1月4日に長崎市と合併し現在に至っています。

かつて香焼島と蔭ノ尾島との二島からなる島でしたが、昭和17年(1942)に香焼島と蔭ノ尾島との海面が埋め立てられて一つの島となり、次いで香焼・深堀間の海面が埋め立てられ、昭和43年(1968)に陸続きとなりました。

中世・近世においては深堀氏との関わりが深く、鍋島茂賢が深堀純賢の養子となり家督を相続した文禄3年(1594)以降は鍋島(佐賀)藩領となりました。

また、香焼地区は防州(今の山口県徳山市付近)と18世紀初め頃から交流があり、防州の人たちが香焼に来て鰯網漁を行っていたことが様々な資料により分かっています。代表的な網元である村井喜右衛門らは、季節毎に来島し、鰯を干鰯にし、おもに肥料用として瀬戸内や関西方面に出荷していました。

こうやぎさんえんぶくじ 香焼山圓福寺

『長崎名勝図絵』によると、寛文11年(1671)に深堀の地頭であった鍋島茂春が海岸近くの荒れ果てたお寺を現在地に移して再建し、圓福寺としたとされています。また、圓福寺の縁起書には、同じく鍋島茂春が延宝2年(1674)に、深堀の菩提寺の和尚賢外を抜擢して圓福寺を開山、その際、真言宗から曹洞宗へ改宗したと記されています。

現在、圓福寺には、「圓福寺の梵鐘」をはじめ、「即非禅師書戀香山岩謁」など市指定文化財が受け継がれています。

いわたてじんじや 岩立神社のエノキ(市指定天然記念物)

エノキは、ニレ科の落葉高木です。岩立神社のエノキは、樹齢約200年(推定)で、樹高約20m、根回り約4mを測り、岩立神社の境内で最も古い木であり、樹勢も旺盛です。

側に香焼村が明治31年(1898)に深堀村から分村したことを記念して大正2年(1913)に建立された記念碑があります。



ぶぜんぼうしや 豊前坊社のエノキ(市指定天然記念物)

樹齢約200年と推定され、樹高約20m、根回り約4mを測ります。大正7年(1918)、香焼村郷土誌に「豊前坊は丹馬郷にあり。境内には古木繁茂し、中には周囲1丈2尺の榎の木あり。けだし本村中、榎の最古木たるべし」とあり、神木のように大切にされ、集落の変遷を見守ってきた木といえます。

この豊前坊社のエノキは、旧香焼町の町木のモデルとなった木です。



こうやぎ いわしあみりょうかんけいしりょう
香焼の鰯網漁関係資料

(市指定有形民俗文化財)

鰯漁が盛んであった頃、瀬戸内の各地や佐賀の早津江方面から香焼島に来漁する人たちが数多くいました。鰯は田畑の肥料として干鰯に加工され、主に関西方面や防州等（今の山口県徳山市付近）に出荷されていました。

「香焼の鰯網関係資料」（市指定有形民俗文化財）は、主に防州等から来漁する人たちによって寄進されたもので、当時の香焼の様子や防州等との交流を知る貴重な資料です。

ほりいげじんじや とりい
香焼の鰯網漁関係資料～堀池神社の鳥居～

(市指定有形民俗文化財)

享和元年（1801）に笠戸屋徳左衛門の寄進によって建立されたものです。高さ 251.0cm、幅 290.0cm の鳥居で、石材は花崗岩と推定されています。右側の柱の表に「奉寄進」、裏に「防州櫛ヶ濱 笠戸屋徳左衛門」の刻字を確認できます。圓福寺の石燈籠と同じく、肥料用の干鰯を出荷していた時代の香焼と防州の関わりを示す資料です。

ろくじぞうせきどう
香焼の鰯網漁関係資料～六地藏石幢～

(市指定有形民俗文化財)

享保2年（1717）来漁した佐賀の早津江の人が主となって、香焼島の人たちとともに圓福寺に寄進されたものです。

瀬戸内方面からきていた仲間達に頼んで製作して運んだものではないかと考えられます。



いしとうろう
香焼の鰯網漁関係資料～石燈籠～

(市指定有形民俗文化財)

長門屋庄右衛門により文化4年（1807）に圓福寺に建立されました。花崗岩製で、高さ 221.0 cm、台座 縦 93.5 cm、横 92.0 cmを測ります。

「奉寄進 防州小郡津市長門屋庄右衛門 文化四年卯三月吉日」の刻字があります。

毎月 20 日の奥ノ院弘法大師お逮夜に灯されているため、「火袋」の内側が煤で黒色に変色しているのが分かります。



てんまんぐう ほくら
香焼の鰯網漁関係資料～天満宮の祠～

(市指定有形民俗文化財)

大漁と漁の安全を祈って祀られたもので、総高 90.0cm、祠部分は高さ 79.0cm、縦 30.0cm、横 43.0cm の祠です。安永2年（1773）の紀年銘があります。

かつては、現在の香焼総合公園展望台にありましたが、公園建設のため栗ノ浦地区が見える天神山の中腹（現在地）に移転しました。



こうやぎとおみばんしょあと
香焼遠見番所跡（市指定史跡）

遠見番所は、来航する外国船を監視し、その情報を長崎奉行所に連絡するための施設でした。

長崎における遠見番は、寛永16年（1639）のポルトガルとの国交断絶後に制度化されました。白帆注進とも呼ばれた遠見番による連絡手段は、天領長崎のほか佐賀藩においても持ち入れられており、互いにその連絡の速度を競ったといわれています。佐賀藩の連絡ルートは、脇岬村銅山山頂から高島、伊王島、香焼の各番所を経て浦五島町の深堀屋敷、さらには大黒町の佐賀屋敷へと中継するものでした。

香焼の番所跡は石垣等の遺構がよく残されており、当時の遠見番所の規模等が確認できる数少ない遺跡のひとつとして貴重なものです。



ほんしやう
圓福寺の梵鐘（市指定有形文化財）

長崎の原市郎左衛門（功德主）・伊藤仁兵衛（募縁主）らによって寄進されたもので、安山弥兵衛國達により製作されました。元禄5年（1692）の紀年銘が確認できます。

阿（安）山家は、長崎鍛冶屋町の鋳物師で、長崎とその周辺に梵鐘など多くの鋳造品を製作しており、弥兵衛國達は圓福寺の他にも、記録等では長崎の悟真寺・浄安寺・三宝寺などの梵鐘を鋳造しています。

阿（安）山家歴代が製作したものの大部分は戦時中の金属供出で失われましたが、崇福寺の梵鐘（県指定有形文化財）・青銅塔（市指定有形文化財）・円成寺の梵鐘（市指定有形文化財）などが現存しています。

とうじんかいなんしやかいそうくようとう
唐人海難者改葬供養塔（市指定史跡）

延享元年（1744）長崎に入港した唐船が、同3年（1746）帰国の途中、香焼と深堀の間で暴風のため遭難し船主馬奉天以下54名が犠牲となる海難事故が起きました。

犠牲者は、以前溺死した中国人1人とともに遭難場所に近い海岸に埋葬されましたが、後に風雨により荒廃したため、宝暦2年（1752）長崎在住の高山輝ら15名の中国人によって現在地に改葬されました。本供養塔は、合葬塔であるだけに、長崎に所在する唐人墓碑の中でも規模が大きく、装飾なども当時の形態をよく残しています。また、遭難者名はもとより、建立した中国人商人の氏名・出身地なども刻まれており、日中交易史に関する資料として価値が高いものです。

そくひぜんじしよいこうこうざんがんのげ
即非禅師書憩香山岩謁（市指定有形文化財）

この書を書いた即非如一（1616～71）は、中国福建省福州府に生まれ、清代の順治8年（1651）隠元禅師より正式な禅僧として認められました。明暦3年（1657）に渡来して崇福寺に入りました。寛文3年（1663）に黄檗山に上り、同8年（1668）に崇福寺に帰ったのち同11年（1671）56歳で示寂*しました。深堀の菩提寺の本堂にも木庵禅師が書いた「菩提禅寺」の額があるように、万福寺に上る以前、即非禅師と木庵禅師は香焼や深堀を訪れたようです。本書跡には年代等の記述はありませんが、その内容・記述から即非禅師が圓福寺を訪れたことが裏付けられます。

*示寂…高僧などが亡くなること

